

安芸の山道



石垣群
宇佐神社
中川
中川は昭和50年代
米田村の豊
1130.7豪雨で其跡が
かい減。

我々
奥山に紅葉ふみわけ
はく鹿の
声きくとときぞ
奥山百人首
大天

張川林道
826 畑山-中川間
546 宝蔵峠まで
安芸川と伊尾川
間が連結される。

宮前署OBの精太郎さんは、3歳の
頃、父親につれられて、大分県-西川
張川-中川とアゴを釣りまき
仙谷の山道を越えて大分県の家
まで一日で歩いたことがある。

宝蔵峠
作樂道
カモシカに出会うとほんたうとてむかし
カモシカは人も鹿も猪もきけい鹿と鹿で
鹿取つていくことができた。不思議な鹿だ。

天然林
文人が座れるサルコシヤのり
ヒープ びつめ
この広大な奥山一帯には
先人の努力によって植林
され、いたかな人工林が
広がっている。
荷物は紙一枚
でも軽く
した
2018年の夏は
夏の奥山に
とけた。

仙谷の風は
上から吹ま
あさ
奥山に
聞いた話

清水産の
作業道が
延伸している

山を歩く時
歩む方に生か
か重なる
丁寧な生か
悪しうは生か
霧らしの目が
なっている日常を
反響するはかた

尾羽の数が
13あったら
化かるといふ

このあたり、ニホンザルが
大きな群れもつて
くうしている。
にいざん
山において
サルはタガ

地面が見え
ミリアツキ

奥仙谷

安芸市は量々と連なる山並みが
奥深く広がっている
高知県内の自治体のなかで
標水点のある県境から、高知
の土佐湾までつながっている
のは安芸市だけ

深い谷 (いしはんうまのり)
こんこんと湧く泉
甘い水 仙谷の名水

宝蔵峠-仙谷山-宝加勝
この見根を分水嶺として
安芸市の二土河川である
安芸川と伊尾川が流れている。

直接的で急流の川の
流れと比例して、人が
山から町へと短い間に
移動しているように思え
てならない。
かつて、木が100年たると
の昔まで、この山々
谷々もめりやうにして
入々の管みがある
其落をつないだ山道が
あつた。

別役古井

伊尾川
H28.7.21
ツキノワクマカ
目撃された

その昔、サレタのダン
に金(金物)の娘が
現れ道ゆく下
山を揺るよう
訴えていたといふ。
日本一長い名前の山
丸塚宝加勝下宝加勝山

別役往還
別役の堀と市内の工屋と
結んでいた群道。

甲斐 伊豆の木は
諸国の名産品と看
並べ集宝された
木材の輸送には大空船が
関西方面へ出入していた。
1445年(文政2年)の
兵庫北門入船新帳
には安芸郡(山形)の
山林で働く相人
たちのことが記され
ているといふ。

高年齢の古木は
祖父や曾祖父の世代が
植えたもの。
私たちの世代が「植え直し」

苗木は、いづか
孫や曾孫の世代が
伐採する。
その収獲する時、祖父や
曾祖父はよく、自分が植えた
木の収獲を待てること
ない。林業は生きる時間と
愛のたまもの産業。

数ある色の中で
自然の中にある
色は青。
青は自然の中で
異色。スルスルと
目につくと
同じく美しい。

万料の山道の途中にある数々の
のり屋。家は人が住まなくば
あつた猛しい自然の中、おれ
不で草の海に沈んでいく。
かつて包材や木材を運ぶ人々の
くらしを支え続けた山村が崩れていく。

平成最後の夏。30年7月
西日本豪雨が発生した。
この流域は7月5-6日と
ピークに大雨が降り、続々
古井浸没所では降り
始めから1617mmの
累積雨量を記録した。
安芸市の各地に深い
傷を残し、ここに記した
各林道も甚大な被害を
受けており、復旧には
長い時間がかかること
になる。

雨は優しい。
だが時には
無慈悲である。